

抜歯した後に気を付けること

～ 痛みが長引かないようにするために～



抜歯の後、麻酔が切れると痛みがでてくること多いですが、たいてい1～2日程度で痛みを感じなくなります。必要に応じて痛み止めの薬を使用しても構いませんが、痛みが続いたり、強くなる際には注意が必要です。抜歯した歯が生えていた部分の骨が、血餅（血の塊・かさぶたのようなもの）ができないために口腔内に露出してしまふ、ドライソケットという状態になっている可能性があります。ドライソケットを予防するためには、抜歯後下記のことに気を付けて生活しましょう。

1. うがいのし過ぎに気を付ける

出血が気になって、頻繁にうがいをしてしまう人がいます。これは、せっかくできた血餅が流れてしまう原因になるのでやめましょう。どうしても気になる場合は、そっと水を口に含んで吐き出す程度にして、回数もできるだけ減らすようにしましょう。



2. 激しい運動や、飲酒、長風呂を避ける

血行が良くなり過ぎることで、出血してしまい、うまく血餅ができないことがあります。

3. 歯を抜いた部分で噛まないようにする

刺激によって傷の治りが悪くなるだけでなく、食べかすに付いた細菌によって炎症を起こすことがあります。

4. 処方された抗生物質は自己判断で中止しない

抗生物質は、抜歯した後の傷口に細菌が感染して炎症がおきることを防ぎます。

5. 禁煙する

喫煙することで、歯肉や骨の血行が不良となり、傷の治りが悪くなりますので、禁煙しましょう。



ドライソケットになってしまっても、抗生物質を長めに飲んだり、お薬を塗ったり、あえて再度出血を促したりする処置等によって治療することができます。抜歯後、痛みが長引く場合は、我慢せずかかりつけ歯科医に相談しましょう。